LCGT大方針の件

LCGT 大方針会議　議事録より

7年後の LCGT の目標は従来の LCGT の概算要求通りとする.

「5年後に RSE を入れて 150Mpc 見えるものを作る.

かつ，低温化の部品を揃える．半低温をどうするか」

等を，大橋氏が検討グループの座長を務めてまとめる.

５年目WG (11/30) より(所長コメント)

- 既に合意されている事項：

  （１）５年目に試験観測を行う。

  （２）８年目最初からはfull LCGTでの観測運転。

- 基本方針１：LCGTをR&Dマシンとはしない。これはあくまで観測のマシンであるので、R＆DはCLIOなどで行う。R&Dの結果十分LCGTに入れて効果で出ると分かったものもみを入れる。
- 基本方針1.5：上記基本方針１は８年目からの運転についてもあてはめる。十分なR&D成果が出ているもののみ入れる。つまり、full LCGTで入れるとなっていても、R&Dの成果が十分でなければいれない。
- 基本方針２：上記を踏まえて、LCGT, CLIO, …を用いた８年目当初までのロードマップを作成する必要あり。

LCGT大方針の件(続き)

解析グループへの要求は、自動的に以下様になると思われる

[1] ５年目にデータ解析を行う

- 単独でやるべきデータ処理（キャリブレーション、前処理、配布データ形式）が可能であること
- 単独で行う代表的探索解析が可能であること

  観測時期により、多少の遅延はありうるか？
- 海外グループとの共同解析のフレームワークが準備されていること

[2] ８年目当初には、恒常的な観測データに対応する

- 連続的にデータを滞り無く処理できること

  解析センター？

  各処理や探索作業の分担や効率化についてある程度できていること
- 海外グループとの共同解析が行われること

[重要] 重力波初検出の際の対応がなされていること

white paper (proposal)

- LCGT data analysis white paper --DRAFT

Introduction
担当：神田

Searches for signals from compact binary coalescence
担当：田越

Searches for general burst signals
担当：

Searches for continuous-wave signals
担当：伊藤

Searches for stochastic backgrounds
担当：

The characterization of the data
担当：

Computing and Software
担当：

今年度末（３月）に第１版、英文

@Rome

1/25/2009 Mini-workshop:

- Physics of Neutron Stars as Gravitational Wave Sources

1/26-29 GWDAW14

- round table meeting at 1st day.

  Scientific discussion about “1st detection claim”